講義名	オ)メディア論				
担当教員	桑原　桃音				
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 １時限		授業形態	講義	
履修開始年次	３年生	単位数	2	備考	

主題と概要

主題：メディアの歴史、メディアの現状、メディアの文化についての概要を知る

概要：
・メディア論とは何かを知り、メディア産業の構造とその変化の輪郭をつかむ。19世紀後半以降のメディアの歴史から、現代のメディア環境の革新と多様化についてたどることで、メディア論の基礎的な知識、視点、理論を知る。メディアがいかに社会を切り取るのかを検討し、考察するために、ジャーナリズムの実践とメディアの表象についてみていく。さらに、メディアを資料として社会意識や社会問題を検討し、考察する。

・ この授業では、授業の理解のためにレジュメだけでなく、補足資料、パワーポイント、ワークシートを用いて講義を行う。理解を深めるために、現代メディアの分析、新聞記事の要約と意見の提示、映像資料の視聴、グループワークを行う。

【注意】
オンラインで参加する学生は、毎回オンデマンドで授業動画を視聴した後、ResponやRYUKA Portal等で課題を提出してもらう。
授業当日か翌日までに授業動画をアップし、RYUKA Portalを通して講義に関する連絡をする。教員から連絡があった１～３日後に課題を提出しなければならない（締め切りは課題の内容によって変わる）。

到達目標

(1)メディア論の基礎的な考え方、方法、理論、メディアが社会や個人に及ぼす影響について理解し、説明することができる。

(2)メディアによる社会変化の可能性、同時に現代社会におけるメディアの現状や問題について理解し、説明することができる。

(3)マス・メディア、インターネットによってメディアの可能性や発信方法が広がるなか、表現の自由、報道の自由を守りながら、メディアを通して広がる差別、偏見、社会問題をなくしていく意義を理解し、その理解のために必要な知識を得て、問題を解決するために何が必要かを考え、提案することができる。

(4)上記の能力を用いて、メディアによって社会現象をとらえる重要性を知り、同時に、メディアによってつくられる自明性を問いなおすことができ、その視点でメディアを資料として、問題を検討し、考察することができる。

提出課題

・毎回オンデマンドで授業動画を視聴した後、課題を提出してもらう。
・毎回800～1500字以上の課題を課すのでしっかりと記述すること。
※Responは授業内で情報共有するので個人情報が露呈しない内容にとどめること。
・対面ではグループディスカッションを行うこともあるが、感染拡大の状況を見て、Responを使った双方向ディスカッションなどを課す。たとえば、他の受講生のRespon内容を共有し、それらの内容について自分の意見を述べて議論につなげるなど。
・不定期に特別課題、小テストを課す。

・授業中半で、中間レポートを課す（授業の進度や受講生の様子を見て中間テストに切り替える場合もある）。中間レポートの未提出によって点数が下がり、単位が認定されない場合があるので注意すること（1500字～2000字を予定）。
・最終レポートの内容については講義時に詳細を説明する。ポータルの説明内容だけでは書けないので注意すること（3000～4000字を予定）。また、最終レポートを提出しない場合は、授業を「放棄」したとみなし、単位が認定されない。教員からの指示がない限り、締め切り以降の提出はいっさい認められないので注意すること。
・レポートは期限までにRYUKA Portalに提出する形式で課す。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回の授業課題の講評、質問については、次回もしくは次々回の授業時に学生へ伝える。
授業課題の講評内容を参考として最終レポートに活かしてもらう。

評価の基準

・平常点60% （講義内の課題、不定期に実施する小テスト60%）
・レポート40%（中間レポートor中間テスト10%、最終レポート30%）

※毎回の課題の未提出が5回以上になった場合は単位不認定となる。
※次の行為は判明した時点で単位不認定。①課題やレポート内容にインターネットからの盗作・剽窃があった場合。②他学生の課題、レスポン、レポートをコピーして提出した場合（この場合はコピーしたもの/させたものどちらも不認定）。①、②ともに部分的な盗作、剽窃、他学生の課題内容のコピー＆ペーストでも単位不認定。

履修にあたっての注意・助言他

・毎回の課題の分量が多いので頑張って取り組むこと。

・課題の提出、Responの入力を積極的に行うことが評価につながる。課題の未提出が評価にひびくので注意すること。

・文字数が少ない、授業内容をまったく理解できていない、あきらかに指示した授業資料や動画を視聴ていしない、いい加減な課題は0点

・何らかの理由で提出ができない場合は、信ぴょう性書類を用意して必ず締め切り前に教員にメールで連絡をすること。連絡がない場合は受け取らない。

・各課題、各レポートで盗作・剽窃したものは、それまでの課題点がどれだけよくても、発覚した時点で単位不認定とする。

教科書

.使用しない.				

プリント資料及び参考文献

・資料とレジュメはRyuka Portalを介して配布する。
・参考文献は適宜指示する。インターネット上のサイトなども利用する。

授業計画

1. オリエンテーション＆メディア論（1）メディアとは
2. メディア社会の構造
3. メディア史
4. メディア論（2）マスメディアとは
5. 現代メディア（1）TVとインターネット
6. 中間レポートについての説明、メディアから読み解く社会意識：雑誌表紙分析を事例に
7. 現代メディア（2）SNSと炎上
8. 中間レポート、もしくは中間テスト、前半のフィードバック
9. メディアと社会意識（1）メディアの影響への問い
10. メディアと社会意識（2）インターネット時代の権力と世論
11. ジャーナリズムとは
12 最終レポートについて説明、新聞記事から社会を読み解く
13. ジャーナリズムのジレンマ：京アニ放火事件を事例に
14. メディアを分析する：最終レポートについて
15. まとめ、後半のフィードバック

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：指定された参考文献、雑誌・新聞記事などの資料に目を通す（各約30分）。
次回授業の参考文献として指定された資料の配布があった場合は授業までに目を通す。
毎回ではないが、授業内で指定された資料を収集したり、その資料について要約したりしてくることを予習として課す場合もある（資料はweb上で手に入れられるものにする）。

復習：授業時に配布した資料、授業聴講時にとったノートを見直すこと。さらに、授業で理解した知識を踏まえて、その内容について考察したことを文章化してノートに200字程度書くこと（各30～1時間程度）。不定期であるが宿題が課されたら、その作業をすること（30分～1時間程度）。

中間レポート、最終レポートはともに作成のための資料収集、レポート作成作業に5時間以上は要するので、そのつもりでとりかかること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目では、メディアに関する専門的な知識、メディアの存在がいかに社会や個人に影響を及ぼすのか、時事問題やグローバリゼーションとメディアとの関連等を知り、メディアに関わる知識を軸に、現実社会の様々なテーマに取り組み、社会におけるメディアの役割と意義を理解して、考える能力を培うことができる。

また、この科目では、メディアに関わる社会問題を事例として、社会をよりよくするためには、メディアによって媒介される発信者と受信者はどのようにあるべきか、よりよいメディアのあり方のために何が必要かを考え、提案する能力を培う。

また、メディアをめぐる状況がめまぐるしく変わるなかで、「社会人」として必要な情報リテラシーを身につけることができる。

さらに、自分がより良い社会に貢献するためにどのようにメディアとうまくつきあっていくべきなのかを考える能力も培う。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

提出された課題やResponの内容について授業内で講評や解説を行う。

Responを用いて授業内で意見を提示してもらい、それらについては次回以降にコメントや解説をする。

受講生の知見や考えを深めるために動画やインターネットを用いる。

Teamsを用いて課題、連絡の提示、学生間のディスカッションをすることがある。

実務経験の有無及び活用

備考

・問い合わせ先は授業内で提示する教員のメールアドレスである。